



荒井塾長あいさつ



「年末年始」

「年賀状じまい」の広がりを実感する年明けになりました。郵便料金値上げの所為ばかりではないと思います。便りをしたため、ポストに落として返事を待つ時代ではなくなったのですね。メールや Line なら瞬時に相手に届くので。今はデジタルの時代だから、こちらもどうするか考えなくてはならないと正月に思いました。

12月初めに90枚年賀はがきを買いました。年々減っています。頂いた年賀状の中に、「年賀状じまい」の挨拶がいくつもありました。塾生の皆様の所では如何でしたか。会社から客先へ出す挨拶状も減っているそうです。やがて、年賀状の来ないお正月が来るのでしょうか。私はなるべく続けるようにしたいと思います。

懐かしい映画の楽しみ

年賀状談義で少し寂しくなったお正月でしたが、私は、年末年始に好きなテレビ映画をみて楽しみました。



昨年の暮れに 3 夜連続で防犯パトロールがありました。パトロールを終わってからテレビで昔観た映画「Always 3 丁目の夕日」「Always 続・3 丁目の夕日」「3 丁目の夕日'64」を 3 夜連続で観ました。1 作目は東京タワーが建設中で、集団就職列車を蒸気機関車 C62 が牽引していた。私はこの人情話の映画が好きで、多分 3 回は観ています。3 作目は 1964 年の東京オリンピック、新幹線電車開業が絡んでいました。薬師丸ひろ子が好演していた。

鈴木オートへやってきた集団就職の女の子「六ちゃん」の話は涙が出ました。(六ちゃんは口減らしのために就職し、実家を追い出されたとおもっていた。田舎に帰ることを何かと理由をつけて拒んでおり、その理由を話したがらなかったが、「母親から『口減らしと言われた。就職が決まり東京に出す事を喜んでいた』等の理由で、自分は家族に捨てられた」と思い込んでいた。

ほどなく、鈴木オートの奥さん・トモエ(薬師丸ひろ子)が六ちゃんの母から毎月送られて来たと言う手紙の束を渡し、「(手紙を送っている事は)言わないでって言われてたのよ」と説明すると、納得して号泣し、年末年始を過ぎしに帰郷の途に着いた。この帰路につく夕日に映える列車の場面が忘れられない。(これが印象深い一作目でした)



もう一つはほぼ毎週観ている渥美清の寅さんの「男はつらいよ」シリーズです。山田洋次が原作・監督で、毎回同じような馬鹿正直が繰り返されるがつい観てしまう。寅さんが現代社会にいたらどうなるだろうか。「不謹慎な発言や言動が目立つが、今でも人々が寅さんに惹かれるのは何故だろうか」。映画では真正面からぶつかって、悩んだり悲しんだりする一生懸命な寅さんの姿が尊くも滑稽に描かれているからだろうか。

私にとって、毎週観ている寅さん映画の登場人物はいつの間にか親戚、家族のような存在になった。変わらない帰る場所があれば大抵のことは乗り越えられる。寅さんには、今の時代に失われている物がいっぱい詰まっており、この灯火を絶やしたくないと思うからみんなが観るのだと思います。

二つのテレビ映画を観て、私の心は十分に満たされました。

4 号瓶の八海山は 4 日間で飲みきりました。元日に観たのは第 5 作目「望郷編」でした。

さて、塾生の皆さんは、どんなお正月でしたか。

今年も笑楽日塾の皆様と【A:明るく、T:楽しく、M:前向きに】歩んで行きたいと存じます。

どうか宜しく願い申し上げます。

完



2025年1月16日 笑楽日塾 塾会 報告

期日 2025年1月16日(木) 17時~19時50分

会場 秘密の場所

出席者 八木、先崎、吉田、内田、星、高木、南、新井、荒井 9名

欠席者 清藤、菊地

ゲスト NPO法人 わらび市民ネット 植田代表・奥田理事・清水理事・山根理事 4名

欠席者 坂本理事

わらび市民ネットから取材の申し入れが有り、1月なので合同懇親会を開催した。
高木氏からメンバーの紹介、吉田氏から声をかけて出席者の皆様に今年の目標について語って頂いた。
笑楽日塾の紹介パンフ(見開き4頁)を全員へ配布した。



次に笑楽日塾の7年間の活動について238枚のスライドで説明があった(2頁~3頁参照)。笑楽日塾の発足の経緯について、八木さん、先崎さんからエピソードを交えて説明があった。

コロナによって多くの国民が行動自粛、3密回避など多くの制約を受けたが、笑楽日塾は、内田さんの指導でZoomによるオンライン会議、公開講座を開催し、コロナによる空白を埋めたばかりではなく、塾生が発表することによって、自分の価値ある輝いた人生を示し、笑楽日塾の存在感を示すことが出来た。

パワーポイントでスライド238枚を使い塾生の行動記録が発表された。塾生全員が画像に映し出され、満足した夜だった。

公開講座テレビ録画の時に、内田さんや高木さんが「今夜は荒井さんの講座です。ハイ30秒前、20秒前、10秒前、5秒前」というアナウンスでドキドキ緊張したことを思い出しました。

▼ 次回は2月6日(木)です。 **開始時間を17時に繰り上げます。**

笑楽日塾冊子 創刊号～6号



シンポジウム オンライン講座



笑楽日塾の発行冊子

- ・毎月発行 **笑楽日塾便り**
- ・2024年12月号までで82号発行済
- ・毎年発行 **笑楽日塾便り 記念誌**
- ・2019年3月 創刊号発行
- ・2025年1月 第7号編集済
- ・毎月更新 笑楽日塾 **ホームページ**



オンライン公開講座



蕨歴史ヒストリア講演とシンポジウム

蕨市民公園でのお花見





「シニアの風」

(順番制で行います。2月号は 清藤さんですので準備の程、宜しくお願い致します。)

「フランケンワイン」

塾生 南 英倫

フランケンワインはドイツのワインです。ラインとモーゼルの白ワインはどなたでもご存じと思いますが、一般的に甘口のワインで好みではありませんでした。

1997年にジーマエンスのプラント事業本部とクリンチして付き合い始めニュールンベルグに近いエアランゲンという田舎町(オームさん生誕の地)に頻繁に通いました。そこで覚えたのがシュナップスとフランケンワインです。

驚きました。辛口でどっしりした男のワインでした。特徴的なボトルはボックスボイテルと呼ばれるようです。

このワインは南部バイエル州のフランケン地方で醸造されています。

最も有名なのは、世界遺産の宮殿があるヴィルツブルグでしょう。ライン河が西に向かい流れフランクフルトで北上します。

蛇足ですが、下の地図にあるシュバインフルトは豚の足という町です。そこのライン河が浅くて豚でも渡れると言われたそうです。



葡萄の種類は、貝灰質の土壌で栽培されるシルヴァーナが伝統的品種です。最近ではミュラー・トゥルガウが現代的なワインとして若手が作っているそうです。

味はいは、トロツケン(辛口)が好きですが、半辛口のハルプトロツケンがあります。高級品質としては、果汁度数が上がるごとにシュペトレーゼ、アウスレーゼ、バーレンアウスレーゼ、アイスバインと階級が上がります。しかし甘口で好みではありませんが、お土産に戴いたワインはこの類いでした。数回ジーマンスに通ったら南は酒飲みでトロツケンだと定義されました。

一番気に入ったワインはシュロス・ゾンマーハウゼン(シュタイマン家)のトロツケン(辛口)です。

蕨でも「葡萄とくま」で手に入りますが、3500円ほどしたと記憶しています。

もう一つ特筆したいのが、アスマンハウゼンの赤ワインです。フランクフルトから北上するライン河の少し下流の右岸にある小さな集落です。



ブルゴーニュワインの代表的な葡萄ピノ・ノワールで作ったなんとも上品な薫りと味わいです。ただ高価で一本\$1000 当たり前です。でも一生に一度飲めたら幸せと思います。



八木 守

あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

昨年2024年2月号から始めました「二十四節気」、今回で1年間を廻りました。

二十四節気(にじゅうしせっき)は、今でも立春、春分、夏至など、季節を表す言葉として用いられています。1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもので、「節(せつ)または節気(せっき)」と「気(中(ちゅう)または中気(ちゅうき)とも呼ばれる)」が交互にあります。

こうした暦は現代の気忙しい生活の中にあっても、忘れずにいたいものですね。

小寒 しょうかん (1/6~19 ごろ)

「寒の入り」といい、寒さが厳しくなる頃です。雉が鳴き、芹が生えはじめ、春に向けて生き物たちも少しずつ動き出します。「寒中見舞い」を出しはじめるのもこの時期ですね。

小寒(しょうかん)とは、「寒の入り」といわれ、これから更に寒さが厳しくなるころ。小寒から節分までの三十日間のことを「寒の内」といいます。寒が明けると立春になります。



大寒 だいかん（1/20～2/3 ごろ）

大寒（だいかん）とは、一年でいちばん寒さが厳しくなるころです。冬の最後の二十四節気。各地で一年の最低気温が記録されるころですが、自然界は少しずつ春に向けて動き始めています。

一年間のうちで最低気温が記録される頃。

氷点下に達する地域も多く見られますが、鶏が卵を産み、露の花が咲いたり、春に向けての足音が聞こえはじめます。（もうすぐ春ですね♪♪）



二十四節気 完